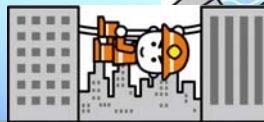
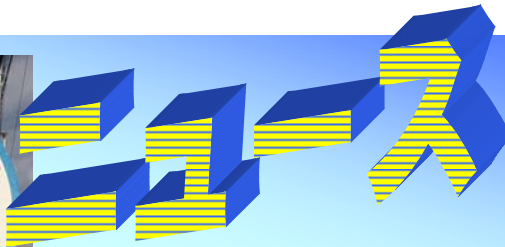
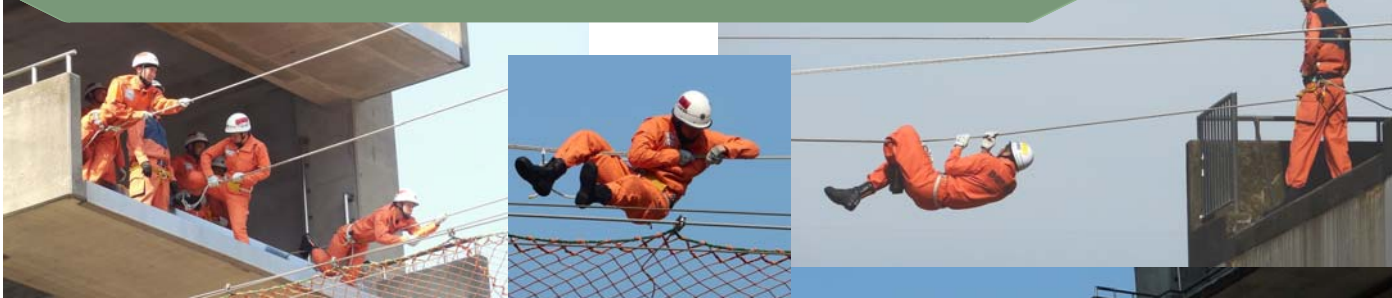


第84号 / ふじのくに静岡県



平成30年6月29日発行

初任科第89期 ただいま救助訓練中...



セーラー渡過

フール時の対処

モンキー渡過



教官の救助



最初から高所では無理な者については、まず低所で訓練、訓練...

訓

練

まだまだこれからです!



ロープ展張



念急はしご救助 (高所からの救出)



火災現場における人命の検索技術の基本を理解・修得

検索救助操法第一法



腰高窓等の屋内進入 要救助者の搬送



三連はしご





6月19日(火)
袋井消防本部

土屋 修次 消防長
青山 哲也 袋井消防署 森分署長
外1名にお越しいただきました。

所属職員との楽しい昼食を済ませられた後は、実科訓練の様子を熱心に御覧いただき、誠にありがとうございました。



大規模危険物施設の火災防ぎよを学ぶ／施設見学

6月 26 日(火)
27 日(水)

下の写真は残念ながら昨年同時期の初任科第87期のものですが、第89期の初任科生たちも写真のように巨大なタンクに登り、「浮き屋根式屋外貯蔵タンク」を実際に見学することができました。貴重な経験です。



初任科では、JXTG エネルギー(株)と清水エル・エヌ・ジー(株) (いずれも静岡市清水区袖師町)の協力を得て、大規模危険物施設の見学を実施しています。

消防学校での危険物に係る座学と危険物試験乙種4類を終え、実際の危険物施設を見学することで、知識の定着を図ります。



プール清掃

7月に入れば、プールでの「体育」の時間が待っている。
基本泳法、スキンドイビング……プール掃除、頑張るぞオ!

- 6月27日(水) 1組 浅プール(水深1.35m)、プールサイド、草刈り
- 6月28日(木) 2組 深プール(水深5m)壁面・床、プールサイド、洗体層、草刈り
- 6月29日(金) 3組 深プール(水深5m)床、地下室、トイレ更衣室、全体仕上げ

われら精鋭部隊！教官1年生3人衆

頼もしい3人です。
職員を派遣していただいた
消防本部に感謝します。



本年度から新たに精鋭部隊に加わった教官3名を改めて御紹介します。教官としての成長が大いに楽しみな3人衆、今後ともよろしくお願ひします。



主査 岡寄 和臣
(志太消防本部から派遣)

派遣されて3か月、同じく4月に入校してきた初任科生たちの頼りなかった顔つきは凛々しいものに変貌してきました。
目先の指導に追われている私も、先輩教官を見習い、学生に負けぬよう変貌途上にあります。
全ての学生を信じ、模範となるべく何事にも発奮興起して取り組んでいきます。



主査 鈴木 啓介
(静岡市消防局から派遣)

新任教官として派遣されてから3か月がたちますが、初任科生134名の成長していく姿を見ることで、教育訓練に携わることの喜びを感じています。
我々新任教官も、学生に負けぬよう「心ひとつ」の精神で日々精進していきたいと思ひます。



主査 丸子 修平
(富士山南東消防本部から派遣)

4月に異動となり、あっという間に3か月が経過しました。
現在は人材育成に携わる業務に喜びとやりがいを感じています。
初任科の学生たちには消防人として『強い気持ち』を伝えられるように真摯な姿勢で向き合っていきます。

3人は県職員として必修である「中堅職員研修」を受講

3人の受講の感想は、
(復命書より抜粋)

「中堅職員研修」は、

新たに副班長級に昇任した職員を対象に、副班長級職員としての役割認識を深めるとともに、その職責を遂行するために必要な考え方・手法を習得することを目標としています。
研修は1日コースで実施され、リーダーシップ、フォローシップ等の内容が盛り込まれている「研修本編」(講義・演習)と、「副班長級職員の役割」「コンプライアンスの推進」(人事課)、「静岡県の財政状況」(財政課)、「こころの健康管理」(健康指導課)で全体が構成されています。
たくさんの県職員と一緒に研修を受講した3人にとって、良い刺激、経験になったのではないのでしょうか。

- 中堅職員として縦横のラインを繋ぎ、組織のエンジンとなり、未来のリーダーを見据えた能力発揮期であることを再認識できた。
- 副班長級に求められる「組織のハブ」「組織のエンジン」「未来のリーダー」の三つの役割を遂行するために、上司である班長に対してはフォローシップを、部下に対してはリーダーシップを発揮しなければならない。特に必要とされるフォロワーとして庁内、関係団体等からの情報を必要なタイミングでリーダーに伝達することの重要性を学んだ。
- 研修で得た知識や技法を活用し、組織へ反映させ、副班長級職員としてよりよい職場環境を築き上げていきたい。



九州北部豪雨災害

について改めて考える

6月22日(金)、(公財)静岡県消防協会が主催する「平成30年度静岡県消防団長研修会」が三島市で開催されました(学校長が協会相談役として出席)。その中で、「平成29年7月九州北部豪雨災害(大規模災害と消防団活動について)」と題し、福岡県甘木・朝倉消防署の中道 優 署長の講演が行われました。

平成29年7月九州北部豪雨では、朝倉市を中心としたエリアで1時間に124mm、9時間で774mmという短時間に記録的な豪雨を観測し、朝倉市で死者33名、東峰村で死者3名、現在も2名の行方が分からないという状況です。消防ばかりでなく、誰にとっても想定外の豪雨であり、雨の降り方、被害の発生の仕方・スピードも到底予測できるものではなかったとのことでした。

たった1年前の出来事なのに、新しい事故や事件、災害の発生で記憶が塗り替えられてしまいます(直接の被災地、被災者であったらそうはいかないでしょうが…)。

講演から1週間も経たない6月28日から、西日本を中心に、後に「平成30年7月豪雨」と命名される集中豪雨が始まります。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎ 054-369-1190 FAX: 054-369-1197 E-mail: fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

